

(様式第3号)

政務活動報告書

会派(議員)名 (太田 縁)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和5年7月31日(月)から令和5年8月1日(火)まで
場所	広島県呉市、福山市
活動の相手	呉市議会、福山市議会
参加議員名	太田 縁、足立 考史、雲坂 衛
目的・内容 ・結果等	別紙報告書のとおり
関連する 支出伝票番号	1, 3, 4

視 察 報 告 書

令和5年8月20日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 太田 縁

令和5年7月31日から令和5年8月1日まで視察したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

広島県呉市 令和5年7月31日(月)

呉駅周辺地域総合開発事業について/呉市省エネ家電買換促進補助金について

呉は、天然の良港と言われ地形的に優れ、村上水軍の一派が根城にしていたことも知られている。明治時代以降は、帝国海軍・海上自衛隊の拠点となり、第二次世界大戦中は、帝国海軍の拠点でもあった。戦前は呉海軍工廠において世界最大の戦艦でもある「大和」などが建造され、東洋一の軍港・日本一の工廠として知られていた。

また、山陰とのかかわりもある。出雲安来のたたら製鉄 和銅を応用し、先端的な軍需鉄鋼研究の拠点でもあった。このため、太平洋戦争末期には呉軍港空襲において米軍の空襲を受け、大きな損害を受けた。現在は、軍事拠点の流れとして護衛艦隊、潜水艦隊や練習艦などが所属する海上自衛隊呉基地があり、その敷地内には海上自衛隊呉地方総監部が設置されている。このため、大和ミュージアム・てつのくじら館など海軍・海上自衛隊に関する博物館がある。2010年代現在これらの防衛・軍事関連施設は観光資源ともなっている。2016年には「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として日本遺産に認定された。造船・鉄鋼・パルプ・機械・金属などを中心とした臨海工業都市である。人口25万人 2016年の中核市指定に指定された。呉で勤務している海上自衛隊員は総員6,600名。火力発電設備大手の三菱パワー(横浜市)は4日、呉工場(呉市)でのボイラー製造を2022年度末までに終わると発表した。製造を長崎工場(長崎市)に移し、従業員の2割近くに当たる約180人を他工場に配置転換する。

呉市都市部呉駅周辺事業推進室より呉駅前の「呉駅周辺地域総合開発について」丁寧にご説明いただいた。バスタプロジェクトと組み合わせて駅前開発が進められていることもあり、鳥取市の関係部局も視察に同行した。しかし、かつての国軍事拠点最大の軍港であった呉と鳥取市では背景が異なる。大規模施策についても国の支援体制は例外的であろうに思えた。

古くからのまち(山側)と新しい町まち(海側)をどうつないでいくか指摘し質問したところ

それが最大の課題だという答弁であった。

ご説明いただいた後、何度も訪れたことのある呉のまちを歩いてみた。

海側は大和ミュージアムが観光拠点となり、周辺にマンションが建設され新しいまちが生まれてきているように見えた。山側には古くからあるれんがどおり商店があり、百貨店も営業していた。老舗の食事処もあり市民にはなじみ深い場所であることが見て取れた。駅前が開発が進むと市民の日常生活が変化し、大規模な商店街が衰退するのではなかろうかと懸念した。約 10 年間にわたって空家となっていた旧そごうの問題は大きかったに違いないと想像されるが、デパートもある古い商店街が救ってくれたに違いない。比較的近接した大都市、県都広島市との関係で市民生活が保たれていたという側面もある。今回の駅前開発計画には、市民生活と駅前開発のバランスなど、更に検討すべき課題が少なくないように思えた。とはいえ、昭和の時代の駅前開発と大和ミュージアム建設の経過などには学ぶべきものがある。かつてのわが国最大の軍港で造船業に必要なすべての関連産業が揃っている呉と鳥取市とでは背景が異なる。また、大規模施策についても国の支援体制は例外的であるように思えた。近い将来、大きく変わった呉を見てみたいとも感じた。

呉市環境部環境政策課長 脱炭素推進グループリーダーにご説明いただいた。

脱炭素社会への実現と地球温暖化防止に寄与すること及びエネルギー価格上昇に伴う物価高騰の影響を受けた生活者への支援を目的に指定した省エネ家電(エアコン・冷蔵庫(新品・未使用))の購入金の一部を支援する。補助金予算 5000 万円 約 1700 世帯(1 世帯当たり 1 回限り)対象商品価格(税抜き)の 2 割/上限 3 万円を補助 全体で 2 億 2500 万円(5 万円の商品×1700 件)が対象となり、量販店では 6 月 2.25 倍・7 月 1.8 倍の売り上げとなり、経済効果が顕著であった。販売店への協力要請を職員が出し、申請書の郵送・市民センターでの預かり・窓口設置(整理券発行)するなど申請者への負担軽減・窓口の事務負担の軽減を工夫されていた。申請書をはじめ要項などが読みやすく判りやすく馴染みやすい文章で作成されていた。中でも、行政用語をなるべく省き誰もが理解しやすい表現を工夫したということ、対象店舗に説明に歩くなど行政サービスの向上を職員自ら実践する姿勢に感銘を受けた。

令和 5 年 2 月、経済産業省の重点加速化事業に家庭用と事業用の太陽光発電設備補助事が採択された。さらに公用車の電動化を進めるなど脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいる。令和 5 年 3 月 8 日、脱炭素社会の実現に向けて、「2050 年ゼロカーボンシティ宣言」を行ったとのことだったが、施策内容が具体的であり、積極的な姿勢は見習うべきと感じた。特に個人への取組として省エネ家電購入補助・太陽光パネルや蓄電池設置の補助事業など市民が身近に取り組みやすい施策で効果が表れていた。参考にすべき取り組みだと感じた。

広島県福山市 令和 5 年 8 月 1 日(火)

「絵本のくに」の取組について/福山駅周辺再生事業/福山城跡整備/「バラ公園」整備について

福山市は、広島県の最東部、鳥取市民にとっては一番近い広島県としてなじみがあり、広島市の次に人口も多く 1998 年に中核市に指定された。瀬戸内工業地域を構成している重工業都市であるが、景勝地、鞆の浦は古代より「潮待ちの港」であり、アニメ映画「崖の上のポニョ」の舞台のモデルになった。美しい景観で多くの人を魅了している。広島県は 1983 年、鞆港の湾内を横切る埋め立て・架橋計画を策定したが、鞆の浦埋立て架橋計画問題」が起きた。「歴史ある景観を守れ」と反対する声が全国から上がった。地元では生活の利便性向上を望んで計画を支持する人もあったが、湯崎英彦知事が 12 年 6 月計画の撤回を表明し、実際計画は頓挫した。江戸時代には福山藩の初代藩主・水野勝成によって綿花栽培が奨励され、その後の備後絨やデニムの生産へと発展し、地場産業を生み出した。福山城は、昭和 20(1945)年の福山大空襲によって、伏見櫓、筋鉄(すじがね)御門(国の重要文化財)を残して焼失した。

福山駅周辺再生事業

福山城は JR 福山駅ホームから目の前に見ることができることで知られている。現在の天守、月見櫓、御湯殿は 1966 年(昭和 41 年)に鉄筋コンクリート構造で復興されたものである。形式は輪郭式の平山城で 2 重の堀や瀬戸内海へ抜ける運河を持つために海城としても知られていたという。しかし、本丸以外の城郭遺構については、昭和初期までに城北側にある堀をかねた吉津川以外のすべての堀が埋められ、三の丸は大半が市街地と化すなど遺構の破壊が進んでおり、石垣も本丸と二の丸の大部分と三の丸を除き、概ね取り壊されている。埋められた堀の一部に線路が敷かれ現在の福山駅がある。現状では城の遺構の破壊と進行中の市街地開発が対照を成すまちの構成となっている。市内の大規模商業施設、福山そごうが撤退し、中心市街地の衰退感が強調されているが、福山駅周辺の再開発によりマンションも増え市街地居住人口を増やそうとしているように見受けられた。福山駅前(南)は比較的小コンパクトで機能的な印象を受けた。平屋のバス待合がありバスが待機していた。一般車両は地下駐車場に誘導し、地上の混雑感を和らげようとしているようである。駅周辺には官民で商業施設を再開発中で居住施設を組み込もうとしているようであった。高度成長期から現在に至る町の変遷と開発の変遷の歴史は一見すべきと感じた。

「えほんの国」

市役所は駅から続く街道に接して置かれている。その近くには天満屋百貨店があり、市長の「子育て政策」の一環として 8 階に「絵本のくに」と子育て支援窓口が開設され、絵本 4000 冊の蔵書で読み聞かせのイベントも開催されるようで、普段から多くの市民が親子で訪れ、明るく通いやすい雰囲気が生まれていた。土日も開設されており、子育て支援、相談窓口、母子手帳の交付も行うなど時代のニーズに合っており鳥取市も是非研究して欲しい。

福山城跡整備

福山駅北側の城跡公園からは駅南側にマンション群がありコントラストが明確で不思議とも思える景観であった。

城は再建された長年天守内部は福山市立福山城博物館として利用されていた。昨年リニューアルされバーチャル技術を駆使した現代的な博物館の様変わりしていた。

体験型案内もあり、乗馬や鉄砲撃ちのバーチャル体験などのゲーム場的設えも加えられていた。場内にはエレベーターが設置され、バリアフリー化され、空調も導入されていた。維持管理費が大変気になるところではあるが、近年の猛暑では必要な暑さ対策とも思われた。天守最上階の回縁からは市街を 360 度見渡せ、晴れた日には瀬戸内海を望むこともできる

「バラ公園」

福山市は、1945(昭和 20)年 8 月 8 日の大空襲によって市街地の約 8 割が焼失しました。戦後 1956(昭和 31)年から 1957(昭和 32)年にかけて、近隣の住民がばらの苗 1,000 本を植えました。このよに、福山市の市街地は、市民の手によって「100 万本のばらのまち」として戦後復興されてきました。60 年以上に及ぶばらのまちづくりやローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)を大切に育む取組が世界に認められ、世界 40 か国が加盟する「世界バラ会連合」による「第 20 回世界バラ会議福山大会」が福山市で開催されます。この準備に向けて公園の整備が開始されていました。整備されている公園は広大ではありませんでしたが、市民の手による取り組みが現在のまちづくりにつながっていることに感銘を受けました。鳥取市は昭和 18 年の大震災、昭和 27 年の大火災で市街地のほとんどを失い、緑を取り戻そうとサザンカの木を植え、年間を通じてまちを緑で潤し、山陰の厳しい冬に花を咲かせるなど、鳥取市を代表するにふさわしい木として成長させましたが、世界サザンカ大会を開催するような展開は生まれていない。殊に若い世代継承する取り組みにひろがっていないように感じられます。是非、福山を参考に若い世代と共にサザンカをまち起こしに活用したいものである。



福山市駅前 正面にお城が見える



呉商店街



福山市駅前